

JAPAN TECH

JAPAN TECH project 出展内容のご紹介

index

フジ医療器／トレビ水素プラス電解水素水生成機 S1	2
江崎グリコ／食卓サポートシステム「教えて!ぐりこっち」	3
大広 × Yume Cloud／光が生み出す新しいコミュニケーション「MASU GLASS」	4
プログレステクノロジーズ／革新的な電子本「全巻一冊 北斗の拳」	5
リコー／RICOH THETA の技術紹介	6
マクアケ／「Makuake」から誕生したプロジェクト紹介 (TISPY) 等	7
Scentee／好みの香りを覚える AI ディフューザー Scentee Machina	8
VAQSO／VAQSO VR 世界一小さい VR 匂いデバイス	9
mui Lab／mui 空間に溶け込むインターフェース	10
ユカイ工学／Qoobo, BOCCO	11
Pyrenee／Pyrenee Drive 運転支援デバイス	12
DouZen／Hale Orb - 次世代リビングルーム用インターフェース	13

出展者／出展製品についてのお問い合わせは、下記の取材受付フォームから！

https://ces-japantech.jp/form_media/



トレビ水素プラス電解水素水生成器 S1

健康的なライフスタイルをお約束する、薬事・特許認定を受けた電解水素水生成器の展覧。



※「GANSO」はトレビ水素プラス電解水素水生成器 S1 の米国でのブランド名です。

日本の厳しい薬事認定をクリアし、特許も取得している GANSO

Alkaline Water Ionizer 「GANSO」には、3つの特徴があります。「1：日本で Top3 に入る販売実績」、「2：厳しい薬事認定をクリアした性能」、「3：高効率電解槽は日本の特許認定を取得」、がその特徴です。フジ医療器では、医療用の Ionized Water の一般家庭化にいち早く注目し、約 30 年、製品化を続けてきました。その間に販売した全ての製品が、日本の厳しい薬事認定（JFDA）をクリア。継続引用によって、消化不良、慢性下痢などに効果が認められています。また、通常このような Alkaline Water Ionizer は 1000ml 中、250ml の水を廃棄しますが、私たちは 1000ml 中、50ml 程度と、高効率を実現。この技術は特許を取得しています。

販売パートナーを探す、GANSO 出展チーム

私たちは、2018 年から、この製品を自信を持ってアメリカで販売していきたいと考えています。すでにロサンゼルスから商品提供を行う体制を整えています。アメリカの Alkaline Water Ionizer 市場は好調に伸びており、2021 年まで伸び続けると予想されています。実は、Ionized Water は日本で発祥しました。研究期間も長く、機器の改良も進んでいます。長年、Ionized Water の研究を行ってきた私たちが、自信をもって提供するこの商品を、アメリカでともに販売してくれるパートナーを探しています！

フジ医療器は、健康・美容機器の製造、販売を行う日本企業

私たちの礎は優れた品質です。研究開発・製造・営業など、各部門のプロフェッショナルたちが、日々研究を重ね、情報を集め、新たな商品開発へと結びつけています。当社の製品には、高い専門性が要求されるため、製品をよく理解し、ひとりひとりのお客様を理解することをモットーとした「One to One（ワン・トゥー・ワン）マーケティング」を確立しています。そして、何よりもお客様のニーズをいち早く捉え、商品企画へとフィードバックする体制が、フジ医療器ならではのクオリティーを作り出しているのです。「お客様の思いに応える商品開発を」。この柔軟性ととんだシステムこそが、数々のヒット商品を生み、当社の未来を拓く原動力です。

取材担当者 水口隆司（マーケティング部長）
取材対応可能日 会期中（1/9-12）JAPAN TECH ブース内でご対応可能。



食卓サポートシステム「教えて!ぐりこっち」

家庭に応じた栄養の摂り方を教えてくれる Amazon Alexa スキル「教えて!ぐりこっち」の構想。



食卓サポートシステム「教えて!ぐりこっち」

「ぐりこっち」というキャラクターとの会話を楽しみながら食べものの知識を得られる、Amazon Alexa スキル「教えて!ぐりこっち」。「ぐりこっち」に食べものの名前を伝えると、その食材の栄養素やお勧めの調理方法、それにまつわる小話を教えてくれます。提供される情報は、管理栄養士による監修のもとで公開している「すぐわかる栄養成分ナビゲーター」の内容を反映した、信頼性の高い情報です。今後はこの点をさらに生かし、ご家庭の食生活に応じて、足りない栄養素を補うための食事提案を行う等、「栄養」を軸に、ご家庭の“おいしさと健康”をサポートするサービスとして強化していく予定です。

江崎グリコ株式会社

グリコはエネルギー代謝に欠かせない成分・グリコーゲンを開業の起点としており、各種栄養素の研究を重ねています。「すぐわかる栄養成分ナビゲーター」による食生活の知識の提供や、健康科学研究所などによる各種研究活動など、多くの“おいしさと健康”を実現してきました。その目指すところは、「食を通じて社会に貢献する」ことです。当スキルを通じ、健康な栄養摂取を促したり、食べることに對する関心を高めたり、食事に家族で会話を楽しめるなど、ご家庭の“おいしさと健康”や食育、家族間のコミュニケーション活性化に貢献したいと考えています。

取材担当者 調整中
取材対応可能日 2018年1月12日



光りが生み出す新しいコミュニケーション

インタラクティブな光で日本酒を飲むシーンにコミュニケーションを生む MASU GLASS を開発。



インタラクティブな光の演出とともに日本酒を楽しむ。

「枧・グラス」は、センサーやLED、通信制御によるインタラクティブな光の演出によって、新たな“日本酒の飲用体験”を生み出します。光る「枧・グラス」に日本酒を注ぎ、乾杯すると、乾杯を盛り上げるように光り輝きます。また、バーのBGMに連動して様々なパターンで光ります。このように、一緒に飲む人へ光の体験が伝播し、その空間の中で、個人、またその場にいる友人や家族、同僚とともに、相互に日本酒を楽しむことのできるツールとして、企画・開発を進めています。

枧・グラスの共同開発プロジェクトチーム紹介

私たちは、センサー技術を応用したエンターテインメント用IoTソリューションを提供するYume Cloud Inc.と、総合広告会社の大広の共同で開発を進めるチームです。近年、アメリカでは日本酒市場が順調に伸び、伴って日本酒を楽しむ大型のイベントや、レストラン、スーパー、日本酒を生産する酒造などが増えています。加えて和食の世界遺産登録により、さらに日本文化への興味の高まりを見せています。私たちは、さらなる日本酒の普及を目指し、新しいテクノロジーによって、日本酒の飲み方や楽しみ方を拡張し、日本の食文化とともに世界中へお届けすることをめざしています。

新たな価値の発見を。株式会社 大広 × Yume Cloud

株式会社 大広：「優れたアイデアだけが、最強のコミュニケーションを可能にする・・・」私たちの企業活動の原点です。Ideas win は、ここから生まれました。私たちのフィロソフィーは、人の心を動かすアイデアの創造です。アイデアは、クライアントに成功を、生活者にベネフィットをもたらします。Yume Cloud：センサーテクノロジーとエンターテインメントIoTを専門とするスタートアップ企業です。高度なセンサーを使用して物理的な動きと音を検出し、感知したデータを解釈して、オリジナリティと遊び心にあふれたビジュアルエフェクトを製作しています。

取材担当者：Yume Cloud 吉田 大輔（CEO）/久保 健（シニアアーキテクト）
Daiko 治部央（クリエイティブディレクター）/長谷川雄一（デザイナー/プロデューサー）/石丸小也香（マーケティングディレクター）
取材対応可能日 会期中（1/9-12）JAPAN TECH プース内でご対応可能。



革新的な電子本「全巻一冊 北斗の拳」

革新的な読書体験!あの「北斗の拳」がハイレゾ超高画質で全巻一冊に。言語切替えも可能。



革新的な電子本「全巻一冊 北斗の拳」

これは紙の本の、あたらしい進化のかたちです。電子書籍が登場して10年以上経った今でも、紙の本は依然人気があります。理由は人それぞれですが、本質的には、紙の本が好きな人にとって既存の電子書籍がマッチしていない、と言えます。そこで私たちは、紙の本をあたらしい視点で進化させた電子本「全巻一冊」を提案します。日本が誇る伝説のマンガ「北斗の拳(全巻)+特別読切x日米版」を、テクノロジーによってハイレゾ画質&全巻1冊&言語切替を実現。本製品は、既存の電子書籍でマンガを読む際の課題を解決し、作品が持つ魅力を余すことなく堪能できるよう開発したので、革新的な読書感に、あなたはきっと魅了されることでしょう。

全巻一冊「北斗の拳」の開発プロジェクトチーム紹介

プログレス・テクノロジーズの開発チームは、ものづくりへの熱い情熱と高いスキルを持ったメンバーで構成されています。プロダクト開発における、企画からデザイン、そしてメカ、エレキ、ソフトの設計開発までのプロセスをトータルで推進します。人々に新しい体験価値を提供すべく、日々、今までにない新しい製品の開発に取り組んでいます。

世界に新たな体験価値を! プログレス・テクノロジーズ株式会社です。

プログレス・テクノロジーズは、ワクワクすることが大好きなエンジニアと共にテクノロジーを追求し、社会に求められる製品・サービスを創造しています。具体的には、ロボット開発や医療系システム開発、また今回発表した「全巻一冊」など、人々に新たな体験価値を提供する製品開発に取り組んでおり、様々な角度から日本のものづくりの発展に貢献しています。

取材担当者：小西亨（取締役）、坂松真一郎（プロダクトデザイナー）
取材対応可能日：2018年1月9日～12日（CES2018 JAPAN TECH ブース内）



360° カメラ RICOH THETA の技術紹介

RICOH THETA の様々なプラグインを紹介。開発体験も出来ます。



ワンショットで 360° 撮影できる RICOH THETA V

「RICOH THETA (リコー・シータ)」は、2013年に世界初注1のワンショットで360°撮影ができるカメラとして発売以来、全天球イメージという、これまでの映像表現の常識を超える新たな可能性を秘めたツールとして、さまざまな映像分野で利用されてきました。「RICOH THETA V」は、製品コンセプトである、どこにでも気軽に持ち出せる小型・軽量ボディはそのままに、4K解像度に相当する高画質な360°動画撮影や、360°空間音声記録に対応した高音質録音、大容量データを快適に閲覧できる高速転送を実現しています。

プラグインの追加導入による、様々な機能拡張の実現を可能に

RICOH THETA VではAndroidベースのオペレーションシステムを採用することで、自由度の高い優れた拡張性を実現しています。新たに搭載した「リモート再生機能」をはじめ、今後「外部メモリー記録機能」など開発中の各種プラグインを導入することで、さまざまな拡張機能をスマートフォンアプリから切り替えて使用できるなど、多彩な利用が可能になります。将来的には、一般の開発者がリリースしたプラグインを追加して利用できる環境も構想しています。

株式会社リコーとは？

株式会社リコーは、オフィス向け画像機器を中心とした製品とサービス・ソリューション、プロダクションプリンティング、産業用製品、デジタルカメラなどを世界約200の国と地域で提供しています。創業以来80年以上にわたり、高い技術力、際立った顧客サービスの提供と、持続可能な社会の実現に向けて積極的な取り組みを行っています。EMPOWERING DIGITAL WORKPLACES - 人々の“はたらく”をよりスマートに。リコーグループは、さまざまなワークプレイスの変革をテクノロジーとサービスのイノベーションでお客様とともに実現します。

取材担当者：高橋 忍（株式会社リコー Smart Vision 事業本部 営業・マーケティングセンター 所長 兼 リコーイメージング株式会社 代表取締役社長）
竹内 茂樹（株式会社リコー Smart Vision 事業本部 営業・マーケティングセンター 営業戦略部 営業企画グループ リーダー）
取材対応可能日 会期中（1/9-12）JAPAN TECH プース内でご対応可能。



「Makuake」から誕生したプロジェクト紹介

「Makuake」から生まれた学習型アルコールガジェット「TISPY」やその他商品を展示。



TISPY
ALCOHOL GADGET



飲む × 測る × 学ぶ >> パーソナライズ

酔いをコントロール。学習型アルコールガジェット TISPY

TISPYは「株式会社スタッフ」が開発から生産までを手がけ、クラウドファンディングプラットフォーム「Makuake」にて資金調達をした学習型のアルコールガジェットです。アルコールセンサーとメモリーカードを組み合わせることによって、体内のアルコール濃度を測定・データを蓄積します。使えば使うほど学習し、あなたにパーソナライズされ、「今日はペースが速いよ」「そろそろ水を飲んだ方が良いよ」など、あなたに合ったアドバイスを教えてくれることで、アルコールのセルフケアが行えます。株式会社スタッフ HP (<http://www.rd-stuff.com/index.html>)

世界をつなぎ、アタラシイを創る「Makuake」

「Makuake (マクアケ)」株式会社マクアケが運営する日本最大級のクラウドファンディングサービス。2013年8月のサービス開始より、3,000件以上のプロジェクトを掲載し、1,000万円を超える大型の資金調達事例は約70件となる。現在、全国80行を超える金融機関との連携や提携により、地方の事業者によるプロジェクトの実施事例も増加傾向にある。また、製造業や飲食業との異業種提携を進め、プロジェクト実行者側や支援者側双方の利便性向上と満足度向上をめざしている。サービス URL <https://www.makuake.com/>



Makuake

取材担当者 木内文昭

(株式会社マクアケ取締役 / Makuake Incubation Studio 代表)

取材対応可能日 会期中 (1/9-12) JAPAN TECH プース内でご対応可能。



好みの香りを覚える AI ディフューザー Scentee Machina

スマホで制御し香りを選び楽しめるインタラクティブな次世代の香り体験！ AIがあなたの好みの香りを覚える！



スマホで香りをチェンジ！世界初の AI 内蔵 ルームディフューザー

世界で話題となった、スマホで香りを送るデバイス" Scentee Balloon" の Scentee 株式会社の新製品、AI ルームディフューザー "Scentee Machina"。従来の機械式やスティック型のディフューザーでは実現不可能なタイマーやオンオフなどの制御や複数の香り選びが楽しめるインタラクティブな次世代の香り体験を実現。インターネット接続も可能で、クラウドに搭載された AI（人工知能）が好みの香りを覚え、提案。ブラックアルミ使用の洗練されたデザインと、熟練パフューマーがこだわり抜き開発した "Scentee Machina" のルームフレグランス。あなたにワンランク上の上質な日常を贈ります。

スマホで香りを最適にコントロール、好きな香りを選べます。

"Scentee Machina" は、香りが最適な強さで部屋の隅々まで届くように流体力学に基づき設計されています。また従来の1種類の香りを噴射するディフューザーと異なり、4種類の香りから、自分の好みにあった香りを選んで楽しめます。朝の目覚めに香りを設定することはもちろん、インターネットと接続しているので、外出時にスマホからアクセスし、帰る前に自分の部屋の香りを準備することや、あなたや来客のゲストの好みに応じて、香りを取りかえ、設定することもできます。"Scentee Machina" は従来のディフューザーではできなかった、香りのインタラクティブな楽しみ方ができる、世界初の画期的なデバイスです。

取材担当者 坪内弘毅（代表取締役社長 CEO）
取材対応可能日 会期中（1/9-12）JAPAN TECH プース内でご対応可能。



VAQSO VR / 世界一小さい匂いデバイス

VAQSO は、VR から匂いを出すデバイス『VAQSO VR』を開発するスタートアップです。



世界一小さい VR の匂いデバイス

VR コンテンツのシーンやアクションに連動して、匂いを感じることができます。VR コンテンツに匂いが加わることで、さらにリアリティのある VR 体験が可能になります。デバイスはおかしのスニッカーズと同じサイズで、とても薄く、とても小さいです。

匂いは 5 種類をセット可能。匂いの持ちは 1 ヶ月。Oculus Rift や HTC VIVE など、様々な HMD に取付けられます。開発者は API を使うことで、匂いに強弱をつけること、匂いを消すこと、匂いを一瞬で切り替えること、いろいろな形で、匂いをコンテンツに組み込めます。

VAQSO Inc.

■「東京ゲームショウ 2017」に出展 / 2017 年 9 月に幕張メッセで開催された「東京ゲームショウ 2017」に初出展しました。国内外 9 社とコラボレーションを行い、大体的にブース展開を行いました。ブース内では Oculus Rift 創業者であるパルマー・ラッキー氏が登壇するなどして話題となり、テレビ東京の「ワールドビジネスサテライト」ではトップニュースで報じられました。

<https://goo.gl/2iAE3y>

■ウエルインベストメント株式会社より総額約 60 万ドル（6,400 万円）を調達 / 早稲田大学系のベンチャーキャピタルである『ウエルインベストメント』から、資金調達を実施しました。ウエルインベストメントは、シード・アーリーステージの研究開発型グローバルスタートアップを対象としたベンチャーキャピタルです。

■世界 30 ヶ国、1500 以上のメディアに掲載

取材担当者：川口健太郎（CEO / パフューマー）

取材対応可能日：2018 年 1 月 9 日～12 日（CES2018 JAPAN TECH ブース内）



mui 空間に溶け込むインターフェース

「人によりそうテクノロジー」で豊かな情報ライフスタイルを提案します。



空間に溶け込むインターフェース「mui」

mui (ムイ) はインターネットにつながることの出来るインテリアの「木」です。mui はお気に入りのクラフトや家具のような「手触り」を持ち、テクノロジーの冷たさを和らげる「人によりそうテクノロジー」を提供します。お気に入りの空間における無為自然な IoT を、豊かな時間のための新しい情報ライフスタイルを私たち mui Lab は提案していきます。

mui Lab 株式会社

mui は日本写真印刷株式会社（10月より NISSHA 株式会社）の社内ベンチャーから生まれたプロダクトです。活動はアメリカ合衆国ボストンと本社のある京都市を拠点としています。スタートアップの文脈にのっとり日米で Pitch 等の活動をしています。mui は日本の伝統と最新の技術とマーケットが融合するプロダクト & サービスです。

取材担当者：大木 和典（代表取締役）

取材対応可能日：2018年1月9日～12日（CES2018 JAPAN TECH ブース内）



Qoobo, Bocco

「ロボティクスで、世界をユカイに。」を掲げるロボティクスベンチャーです。



心を癒やす、しっぽクッション。「Qoobo」

Qoobo(クーボ)は、しっぽのついたクッション型セラピーロボットです。

そっと撫でるとふわふわと、たくさん撫でるとぶんぶんと、そしてときどき気まぐれに、しっぽを振って応えてくれます。

それは、動物のようにあなたを癒やすコミュニケーション。

しっぽセラピーで癒しのある毎日が始まります。

<http://qoobo.info/>

家族をつなぐ音声認識ロボット「BOCCO」

家にいる家族とメッセージのやりとりができます。夕方帰宅した子供にスマホからメッセージを送ると、家にいるBOCCOがかわいく話します。子供がBOCCOに話したメッセージをスマホから聞けます。また、同梱の振動センサにより、お仕事中でも子供の帰宅を知れます。鍵の開閉を通知する鍵センサや部屋の温湿度や明るさを知らせる部屋センサなど、様々なセンサが登場します。さらに、BOCCOに話しかけて操作できます。本体に触れずにBOCCOに決まった言葉(トリガーワード)を話しかけることで「音楽をかけて」「メッセージを再生して」など、BOCCOや連動した家電等を操作できます。

<http://www.bocco.me/>

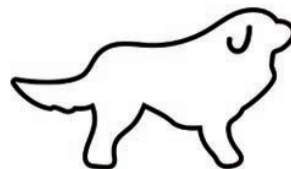
取材担当者：青木俊介 (CEO)

取材対応可能日：2018年1月9日～12日 (CES2018 JAPAN TECH プース内)



Pyrenee Drive 運転支援デバイス

Pyrenee Drive は AI を搭載した後付型の運転支援デバイスです。



Pyrenee

ダッシュボードに置く車載型 AI デバイス「Pyrenee Drive」

ほぼ全ての車に装着できる後付型の車載型 AI デバイスです。インターネットや wifi を活用しドライブレコーダーやナビゲーション機能
その他音楽や電話などの機能を Pyrenee Drive 上で行うことができます。事故リスクが高まった際にはアラートで危険を知らせ、
事故発生時には自動で外部に救援要請を発信してくれます。

成長し続けるデバイス

本製品を使用しているユーザーが走行中に遭遇した交通状況やオブジェクト情報から危険判定の精度等を学習し、ディープラーニングと
AI を活用して購入後も機能がどんどん進化していきます。ユーザーからの情報が増えていく程に機能が高まります。

Pyrenee Inc.

Pyrenee は「人を守る、人を助ける製品」を作る会社です。人生の中で遭遇するあらゆる危険から人を守り、楽しく強く生きていく為に
役に立つ製品を作ることを目標にしています。

取材担当者：三野龍太（CEO）

取材対応可能日：2018 年 1 月 9 日～12 日（CES2018 JAPAN TECH ブース内）



Hale Orb - 次世代リビングルーム用インターフェース

リビングルームでの新 UI 体験をハード、ソフト、そしてサービスの統合で実現する製品です。



CES2018 Innovation Award 受賞。



光る、回せる、話しかけられるスマートホーム用インターフェース

CES 2018 Innovation Award を受賞! 『Hale Orb』(ハレ・オーブ) は次世代のスマートホームの中心になることを目指して開発された製品です。美しいデザイン、高速な UI (ユーザーインターフェイス)、そしてボイス入力を軸にし、誰でも使える直感的なリビングルーム体験をハードとソフトウェアをゼロから作りこむ事により実現しました。家族の写真とビデオを大画面で共有するコミュニケーションを中心に、今後は様々なアプリケーションを追加する予定です。 http://douzen.com/indiegogo_jp/

写真と動画の閲覧+進化するサービス

Hale Orb は簡単に様々な SNS やメッセージの写真をテレビの大画面で閲覧・操作ができますがそれだけではありません。家族のコミュニケーションを軸に、動画閲覧、コンテンツ検索、お天気情報表示なども視野にいれています。そのために独自の操作体系を持つ「Orb OS」を開発しました。今後はデバイスのアップデートでボイスでの操作、そして他のスマートホームアプリも追加予定です。Hale Orb は元ソニー、MIT メディア・ラボ、シリコンバレースタートアップのチームが作り、2018年2月に出荷予定です。

取材担当者 三浦謙太郎 (CEO)
取材対応可能日 会期中 (1/9-12) JAPAN TECH プース内でご対応可能。

